

ダークサイド・スキルの大切さ

グローバル製造業やIT関連企業のコンサルティングを担うIGPIグループの共同経営者・木村尚敬氏は、著書『ダークサイド・スキル』の中で、資格や学位、論理的思考能力や財務・会計知識といった、いわば日の当たる「ブライトサイド・スキル」と、人に影響力を与えたり、人を巻き込んで組織を動かしたり、物事を最後までやり遂げたりなど、裏の泥臭い「ダークサイド・スキル」とを分類・定義した上で、これら二つのスキルを併せ持つことが、この不透明な時代のリーダーには不可欠だと述べている。

ビジネスの世界に欠かせない契約書は、その多くが会社同士の名前で取り交わされる。代表取締役以外の個人の名前が契約書に登場することはまれである。しかし、契約書でつながる会社と会社を実際に結び付けているのは人（社員）であり、さらに言うなら現場の担当者である。会社には法律上の「人格」こそ

人・夢・技術グループ

上席取締役 **加藤 聡** 氏

あれども、結局のところリアルビジネスを実践するのは生身の「人間」なのである。「この人は信頼できる」とか「この人と仕事したい」とかいう思いがなければビジネスは起こり得ない。

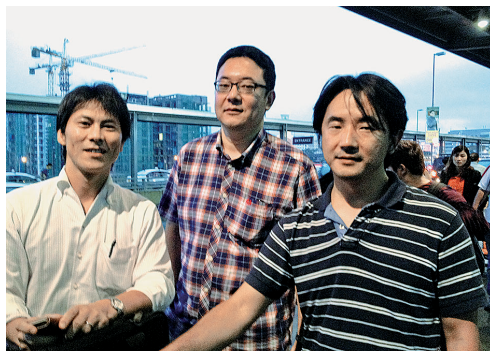
専門知識や経験も必要だが、それだけではうまくいかない。AIを駆使して、生産性や効率性を可能な限り追求したところで、いわゆる「タレント」や「コスパ」だけで成り立つものでもない。それが、懸念に取り組んでいた道が拓けたとか、ひょんなことでキーパーソンとの出会いがあったとか、振り返ってみたら点の一つの線になっていったかの例は枚挙にいとまがない。心に響く。

寄稿

＝下＝

人の縁とは分からないものだとつくづく思う。長大がフィリピンミンダナオ島北東部にあるブトゥアン市で取り組む地域開発事業は、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻（東洋大学PPPスクール）の講義の一環でのミンダナオ島訪問を機に始まった。今やビジネスパートナーや同僚という枠を超えた付き合いとなった、当時鹿島に在籍していた高野元秀氏（ツインピーク・ハイドロ・リソース・コーポレーション社長）と、当時同業他社に所属していた大浦雅幸氏（長大社会創生事業本部サステナビリティ事業部サステナビリティ営業企画部長）が、共に2011年4月に東洋大学PPPスクールへ入学していなければ、このフィリピンでの地域開発事業は存在していない。しかも、

偶然の縁をこれからも



それぞれ左から加藤氏、高野氏、大浦氏。いずれもフィリピン出張にて。出会って間もない2012年9月①と24年6月に撮影したもの

3人は偶然にも同学年。同じ年齢、近い業界の所属、そして三者三様の思考や性格、バックグラウンドなどが相互に作用して、学校外・仕事外での接点を増やし、付き合いも深化させていき、大きな事業へと結実していったのである。初対面の時は30代半ばだった3

人も、15年超の歳月を経てついに50代に突入した。今も話の中心は変わらずビジネスだが、最近健康に関する話題が増えてきた。「『あ行』の『ん』」をもって、われら3人の関係がこれからも続かんことを願いたい。

